

聞き手の立場に立ち、目的に応じた伝達ができる生徒の育成 —企業のプレゼンテーションの分析を通じて—

特別研修員 国語 片岡美穂(高等学校教諭)

課題:効果的な伝え方が分からない 手立て:企業プレゼンのメソッドを活用

1 分析

二つの企業のプレゼンテーション動画を視聴し、両者を比較・分析する。分析した手法を聞き手の立場で評価し、その効果を理由とともに考察する。



【生徒が分析した手法の例】

A社) ゆっくり話す 分かりやすい言葉 重要な箇所の色 図やグラフが多い など

B社) 身振り手振り やさしい言葉遣い 強弱をつける 問いかけが多い 自信のある話し方 ためてじらす ジョーク・笑いを取り入れる 名前を強調 写真や映像を多用 他社と比較してメリットを言う 実物を出す 実際に使う 飽きさせない 雰囲気や盛り上がりが良い など

2 検討



プレゼンテーションの対象・目的を確認する。目的に応じた手法や材料、構成等をグループで検討し、プレゼンテーションを構成する。



当事者意識が持てるよう「本校を受験するか迷っている中学3年生」に「本校を受験してもらうこと」をテーマに設定しプレゼンテーションを実践する。

3 実践

分析した手法を活用しているか目的に応じているか評価する。どのプレゼンテーションがより伝わったか、聞き手の立場で評価する。



4 評価

- ### 成果
- ・効果的な伝達手法を発見し自分の力にできた
 - ・「聞き手の立場に立つ」ことを重視した伝達できた
 - ・自分たちで思考し協働して作り上げる姿勢と実行力が身に付いた

課題

目的に応じた伝達力のさらなる向上のために

- ・プレゼンテーションの検討と実践に継続して取り組む
- ・評価項目を細分化し、より批評的に評価する